

資料	
----	--

奥州市 景気動向調査報告書

実績：令和3年1月～令和3年3月期

見通し：令和3年4月～令和3年6月期

令和3年5月
奥州商工会議所
前沢商工会

調整ページ

奥州市景気動向調査結果（概要版）

〔実績：令和3年1月～令和3年3月期〕
〔見通し：令和3年4月～令和3年6月期〕

「業況DI、売上DI共に持ち直しの兆し

先行きは不安材料ありつつも緩やかな回復感を示す

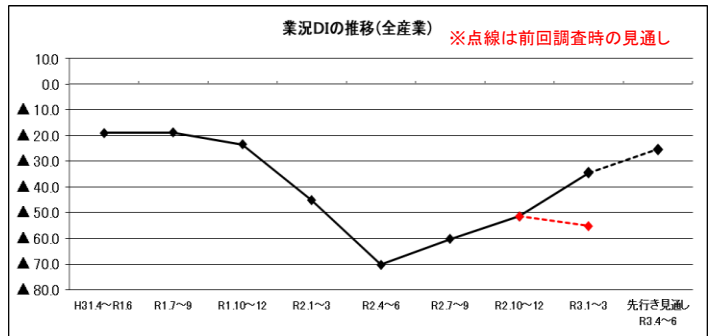
【ポイント】

今回調査の全産業合計の業況DIは▲34.4と、前回調査(▲51.4)から17.0ポイント改善した。業種別では、小売・卸売・製造・サービス業で数値が改善を示し、特に製造業は▲23.1(前回調査▲64.8)と41.7ポイントの大幅改善となった。建設業は前回よりも数値の悪化を示している。

向こう3ヵ月(4月～6月)の業況DIの先行き見通しは、▲25.3と、前回調査(▲55.2)より改善となり、前回の悪化見通しから再び改善する見通しとなった。業種別では全業種が改善見通しを示しており、中でも卸売・製造・サービス業は大幅な改善見通しを示している。

※業種別、設問別のDI値一覧表(実績：上段)(見通し下段)

	業況	売上高	採算	資金繰り	仕入単価	従業員
全産業	▲34.4	▲34.8	▲36.0	▲18.8	▲37.2	17.1
	▲25.3	▲31.3	▲32.3	▲20.2	▲39.1	24.2
小売業	▲41.7	▲36.7	▲32.7	▲14.6	▲30.6	10.9
	▲39.6	▲47.9	▲41.7	▲18.8	▲29.2	17.8
卸売業	▲31.0	▲27.6	▲27.6	▲3.4	▲58.6	17.2
	▲25.0	▲28.6	▲32.1	▲7.1	▲53.6	18.5
製造業	▲23.1	▲30.2	▲34.0	▲18.9	▲37.7	▲1.9
	▲5.6	▲5.6	▲14.8	▲13.0	▲50.9	11.1
建設業	▲28.8	▲32.1	▲28.8	▲15.1	▲35.8	32.1
	▲9.6	▲23.1	▲21.6	▲17.3	▲40.4	38.5
サービス業	▲43.9	▲42.4	▲49.3	▲31.3	▲33.3	24.6
	▲43.3	▲47.8	▲47.8	▲34.8	▲29.0	30.3



【仕入単価について】

全産業合計の仕入単価DIは▲37.2と、前回(▲26.6)から10.6ポイント悪化した。業種別では建設業で数値が改善、小売・卸売・製造・サービス業で数値が悪化した。中でも卸売業は大幅に数値が悪化した。

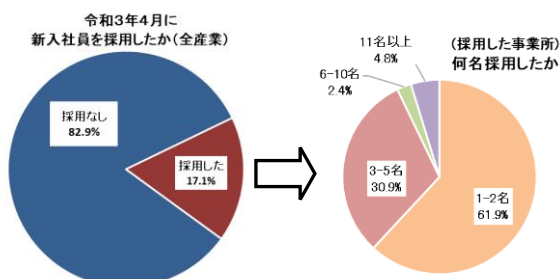
向こう3ヵ月(4月～6月)の先行き見通しは、▲39.1と前回(▲24.0)より悪化する見通しとなった。業種別では全業種で数値が悪化の見通しを示している。

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	▲37.2	▲30.6	▲58.6	▲37.7	▲35.8	▲33.3
前回	▲26.6	▲18.4	▲28.0	▲24.1	▲41.3	▲23.8

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	▲39.1	▲29.2	▲53.6	▲50.9	▲40.4	▲29.0
前回	▲24.0	▲14.6	▲29.2	▲35.2	▲28.9	▲16.1

【新入社員の採用状況について】

令和3年4月に新入社員を採用したかという設問に対しては、82.9%が「採用なし」、17.1%が「採用した」と回答した。調査をした事業所の多くが、新型コロナウイルス感染の終息が見えず、今後の景気に不安を感じて新規の採用を手控えようとしている。その一方で、1人でも2人でも何とか新しい人材を確保して会社全体を活性化させていこうという事業所もある。



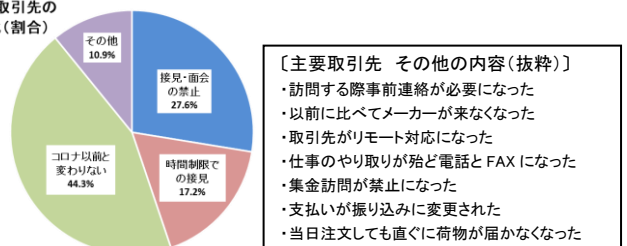
【新型コロナウイルスの影響について(自社及び取引先の変化)】

コロナ禍の中、自社の中でどのような変化があったか複数回答で聞いたところ、「マスク着用を義務付けた」「消毒を徹底するようになった」「スクリーン・遮蔽版を設置した」「検温を常時行った」等感染防止策を徹底するための回答が多く寄せられ、「夜の宴会が大幅に減った」「県内県外の出張が減った」といった対外的な感染防止を講ずる回答も多かった。また、本人やその家族からの感染を防ぐため「仕事以外の感染拡大地域の旅行を禁止した」「県外に住む身内親戚の帰省を極力控えてもらった」という回答の多さも目立った。

また、主要取引先の変化については、「接見・面会の禁止」が27.6%、「時間制限での接見」が17.2%、となり、この二項目合わせて44.8%の取引先が、相手との直接接触を出来るだけ避けるために接見・面会に何らかの制限を設けており、「コロナ以前と変わらない」の44.3%を上回る結果となった。



主要取引先の変化(割合)



【主要取引先 その他の内容(抜粋)】

- ・訪問する際事前連絡が必要になった
- ・以前に比べてメーカーが来なくなった
- ・取引先がリモート対応になった
- ・仕事のやり取りが殆ど電話とFAXになった
- ・集金訪問が禁止になった
- ・支払いが振り込みに変更された
- ・当日注文しても直ぐに荷物が届かなくなった

奥州市景気動向調査結果

令和3年4月調査結果

「業況DI、売上DI共に持ち直しの兆し

先行きは不安材料ありつつも緩やかな回復感を示す」

【結果のポイント】

今回調査の全産業合計の業況DIは▲34.4と、前回調査(▲51.4)から17.0ポイント改善した。業種別では、小売・卸売・製造・サービス業で数値が改善を示し、特に製造業は▲23.1(前回調査▲64.8)と41.7ポイントの大幅改善となった。建設業は前回よりも数値の悪化を示している。

売上DIは▲34.8と、前回調査(▲52.7)から17.9ポイント改善した。採算DI、資金繰りDIは共に改善、仕入単価DIは数値が悪化、従業員DIは人手不足感が強まる結果となった。

向こう3ヵ月(4月～6月)の業況DIの先行き見通しは、▲25.3と、前回調査(▲55.2)より改善となり、前回の悪化見通しから再び改善する見通しとなった。業種別では全業種が改善見通しを示しており、中でも卸売・製造・サービス業は大幅な改善見通しを示している。売上DIは▲31.3ポイントと前回調査(▲57.4)より改善の見通しを示す結果となった。採算DI、資金繰りDIは共に改善、仕入単価DIは数値が悪化、従業員DIは人手不足感が強まる見通しとなった。

令和3年4月に新入社員を採用したかという設問に対しては、82.9%が「採用なし」、17.1%が「採用した」と回答した。調査をした事業所の多くが、新型コロナウイルス感染の終息が見えず、今後の景気に不安を感じて新規の採用を手控えようとしている。その一方で、1人でも2人でも何とか新しい人材を確保して会社全体を活性化させていこうという事業所もある。

新型コロナウイルスの感染拡大から1年が経とうとしており、自社及び取引先でどのような変化があったか複数回答で聞いたところ、「マスク着用を義務付けた」「消毒を徹底するようになった」「スクリーン・遮蔽版を設置した」「検温を常時行った」等感染防止策を徹底するための回答が多く寄せられ、「夜の宴会が大幅に減った」「県内県外の出張が減った」といった対外的な感染防止を講ずる回答も多かった。

また、本人やその家族からの感染を防ぐため「仕事以外の感染拡大地域の旅行を禁止した」「県外に住む身内親戚の帰省を極力控えてもらった」という回答の多さも目立った。主要取引先の変化については、「接見・面会の禁止」が27.6%、「時間制限での接見」が17.2%、となり、この二項目合わせて44.8%の取引先が、相手との直接接触を出来るだけ避けるために接見・面会に何らかの制限を設けており、「コロナ以前と変わらない」の44.3%を上回る結果となった。

自由意見ではコロナ感染拡大による今後の経済への影響を不安視する声が多く、確かに一年前に比べコロナに対する様々な感染対策の徹底や各種金融支援策メニューも整備され、結果今回数値の改善は見られるが、コロナ禍以前の数値までには戻っていない。ようやく高齢者・医療従事者を対象としたワクチン接種が始まったばかりであり、未だ感染収束の先は見えず、今後の動向を注視していかなければならないという結果となった。

調査要領

- 調査期間 令和3年4月1日～23日
- 調査対象 奥州市内の事業所から、業種・規模を勘案して抽出した300事業所に対してファクシミリによるアンケート調査
- 調査項目 令和3年1月～令和3年3月の業況、売上、採算などについての状況及び自社が直面する問題点等

※DI値(景況判断指数)について

DI値は、業況・売上・採算等の各項目についての、判断の状況を表す。ゼロを基準として、プラスの値で景気の上向き傾向を表す回答の割合が多いことを示し、マイナスの値で景気の下向き傾向を表す回答の割合が多いことを示す。したがって、売上高などの実数値を示すものではなく、強気・弱気などの景況感の相対的な広がりを意味する。

$$DI = (\text{増加・好転などの回答割合}) - (\text{減少・悪化などの回答割合})$$

調査票回収状況

回答数 254 回収率 84.7% 小売 50 ・ 卸売 29 ・ 製造 54 ・ 建設 53 ・ サービス 68

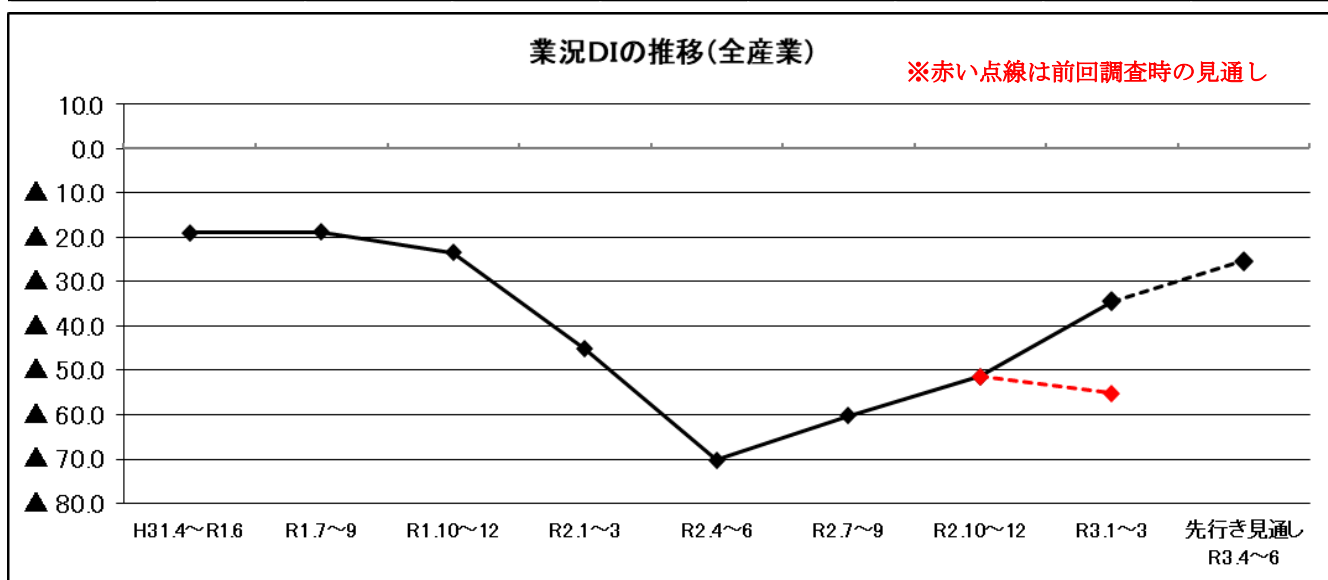
【業況についての判断】

○全産業合計の業況DIは▲34.4と、前回調査(▲51.4)から17.0ポイント改善した。業種別では、小売・卸売・製造・サービス業で数値が改善を示し、特に製造業は▲23.1(前回調査▲64.8)と41.7ポイントの大幅改善となった。建設業は前回よりも数値の悪化を示している。

向こう3ヵ月(4月～6月)の業況DIの先行き見通しは、▲25.3と、前回調査(▲55.2)より改善となり、前回の悪化見通しから再び改善する見通しとなった。業種別では全業種が改善見通しを示しており、中でも卸売・製造・サービス業は大幅な改善見通しを示している。

○業況DI(前年同期比)の推移 【全産業】

H31.4～R1.6	R1.7～9	R1.10～12	R2.1～3	R2.4～6	R2.7～9	R2.10～12	R3.1～3	先行き見通し R3.4～6
▲18.9	▲18.8	▲23.4	▲45.2	▲70.2	▲60.2	▲51.4	▲34.4	▲25.3

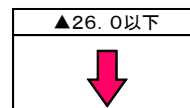
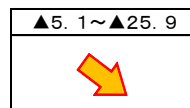
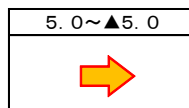
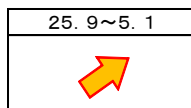


○業況DI(業種別)

実績	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↗ ▲41.7	↗ ▲31.0	↑ ▲23.1	↘ ▲28.8	↗ ▲43.9
前回	▲65.3	▲40.0	▲64.8	▲8.3	▲65.7

見通し	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↗ ▲39.6	↑ ▲25.0	↑ ▲5.6	↗ ▲9.6	↑ ▲43.3
前回	▲64.6	▲66.7	▲48.1	▲27.7	▲69.7

前回調査との対比



※以降の表も同様

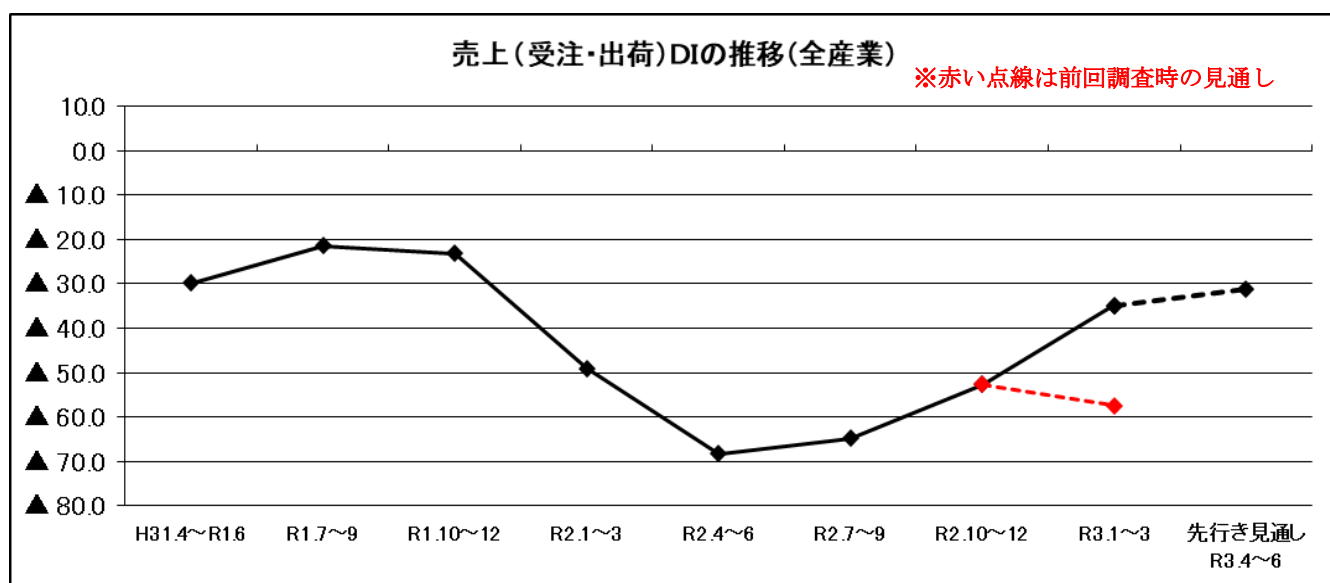
【売上（受注・出荷）の状況についての判断】

○全産業合計の売上DIは▲34.8と、前回調査(▲52.7)から17.9ポイント改善した。業種別では小売・卸売・製造・サービス業で数値が改善し、特に製造業は▲28.8(前回調査▲61.1)と32.3ポイントの大幅改善となった。建設業は前回よりも数値の悪化を示している。

向こう3ヵ月(4月～6月)の先行き見通しについては、▲31.3ポイントと前回調査(▲57.4)より改善の見通しを示す結果となった。業種別では全業種が改善見通しを示しており、中でも卸売・製造業は大幅な改善見通しを示している。

○売上（受注・出荷）DI（前年同期比）の推移 【全産業】

H31.4～R1.6	R1.7～9	R1.10～12	R2.1～3	R2.4～6	R2.7～9	R2.10～12	R3.1～3	先行き見通し R3.4～6
▲ 29.8	▲ 21.4	▲ 23.2	▲ 49.0	▲ 68.3	▲ 64.8	▲ 52.7	▲ 34.8	▲ 31.3



○売上（受注・出荷）DI（業種別）

実績	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↔ ▲ 36.7	↔ ▲ 27.6	↑ ▲ 30.2	↓ ▲ 32.1	↔ ▲ 42.4
前回	▲ 61.2	▲ 44.0	▲ 61.1	▲ 18.8	▲ 67.2

見通し	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↔ ▲ 47.9	↑ ▲ 28.6	↑ ▲ 5.6	↔ ▲ 23.1	↔ ▲ 47.8
前回	▲ 68.8	▲ 58.3	▲ 48.1	▲ 41.3	▲ 67.7

【採算の状況についての判断】

○全産業合計の採算D Iは▲36.0と、前回調査(▲47.9)から11.9ポイント改善した。業種別では小売・卸売・製造・サービス業は数値が改善、建設業は数値が悪化した

向こう3ヵ月(4月~6月)の先行き見通しは、▲32.3と前回調査(▲51.3)より改善する見通しとなった。業種別では全業種で数値が改善、中でも製造業は数値が大幅改善の見通しを示している。

○採算D I (業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↗ ▲ 36.0	↗ ▲ 32.7	↗ ▲ 27.6	↗ ▲ 34.0	↘ ▲ 28.8	↗ ▲ 49.3
前回	▲ 47.9	▲ 57.1	▲ 36.0	▲ 50.0	▲ 19.1	▲ 64.2

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↗ ▲ 32.3	↗ ▲ 41.7	↗ ▲ 32.1	↑ ▲ 14.8	↗ ▲ 21.6	↗ ▲ 47.8
前回	▲ 51.3	▲ 62.5	▲ 50.0	▲ 42.6	▲ 34.8	▲ 62.1

※D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【資金繰りの状況についての判断】

○全産業合計の資金繰りD Iは▲18.8と、前回調査(▲24.8)から6.0ポイント改善した。業種別では小売・卸売・製造・サービス業で数値が改善、建設業で数値が悪化した

向こう3ヵ月(4月~6月)の先行き見通しは、▲20.2と前回調査(▲30.0)より改善する見通しとなった。業種別では小売・卸売・製造・サービス業で数値が改善、建設業でほぼ横ばいの見通しを示している

○資金繰りD I (業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↗ ▲ 18.8	↗ ▲ 14.6	↗ ▲ 3.4	↗ ▲ 18.9	↘ ▲ 15.1	↗ ▲ 31.3
前回	▲ 24.8	▲ 26.5	▲ 12.1	▲ 24.1	▲ 8.3	▲ 40.9

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	↗ ▲ 20.2	↗ ▲ 18.8	↗ ▲ 7.1	↗ ▲ 13.0	→ ▲ 17.3	↗ ▲ 34.8
前回	▲ 30.0	▲ 33.3	▲ 20.8	▲ 27.8	▲ 17.4	▲ 41.5

※D I = (好転の回答割合) - (悪化の回答割合)

【仕入単価の状況についての判断】

○全産業合計の仕入単価DIは▲37.2と、前回(▲26.6)から10.6ポイント悪化した。業種別では建設業で数値が改善、小売・卸売・製造・サービス業で数値が悪化した。中でも卸売業は大幅に数値が悪化した。

向こう3ヵ月(4月~6月)の先行き見通しは、▲39.1と前回(▲24.0)より悪化する見通しとなった。業種別では全業種で数値が悪化の見通しを示している。

○仕入単価DI(業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👉 ▲ 37.2	👉 ▲ 30.6	👎 ▲ 58.6	👉 ▲ 37.7	👈 ▲ 35.8	👉 ▲ 33.3
前回	▲ 26.6	▲ 18.4	▲ 28.0	▲ 24.1	▲ 41.3	▲ 23.8

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👉 ▲ 39.1	👉 ▲ 29.2	👉 ▲ 53.6	👉 ▲ 50.9	👉 ▲ 40.4	👉 ▲ 29.0
前回	▲ 24.0	▲ 14.6	▲ 29.2	▲ 35.2	▲ 28.9	▲ 16.1

※DI = (下落の回答割合) - (上昇の回答割合)

【従業員の状況についての判断】

○全産業合計の従業員DIは17.1と、前回(14.8)から2.3ポイント人手不足感が強まる結果となった。業種別では小売・建設業で人手不足感が緩和、卸売・サービス業で人手不足感が強まった。製造業は▲1.9ポイント(前回▲9.3)と依然人手過剰状態が続いている。

向こう3ヵ月(4月~6月)の先行き見通しは、24.2と前回(15.0)よりも人手不足感を強める見通しとなった。業種別では卸売・建設・サービス業で人手不足感が強まり、小売業で人手不足感が横ばいの見通しとなった。製造業は前回まで人手過剰の見通しだったが、今回調査では人手不足の見通しを示している。

○従業員DI(業種別)

実績	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👈 17.1	👈 10.9	👈 17.2	👈 ▲ 1.9	👉 32.1	👈 24.6
前回	14.8	13.0	16.0	▲ 9.3	39.1	18.2

見通し	全産業	小売	卸売	製造	建設	サービス
今回	👈 24.2	👈 17.8	👈 18.5	👈 11.1	👈 38.5	👈 30.3
前回	15.0	17.8	16.7	▲ 5.6	28.9	20.0

※DI = (不足の回答割合) - (過剰の回答割合)

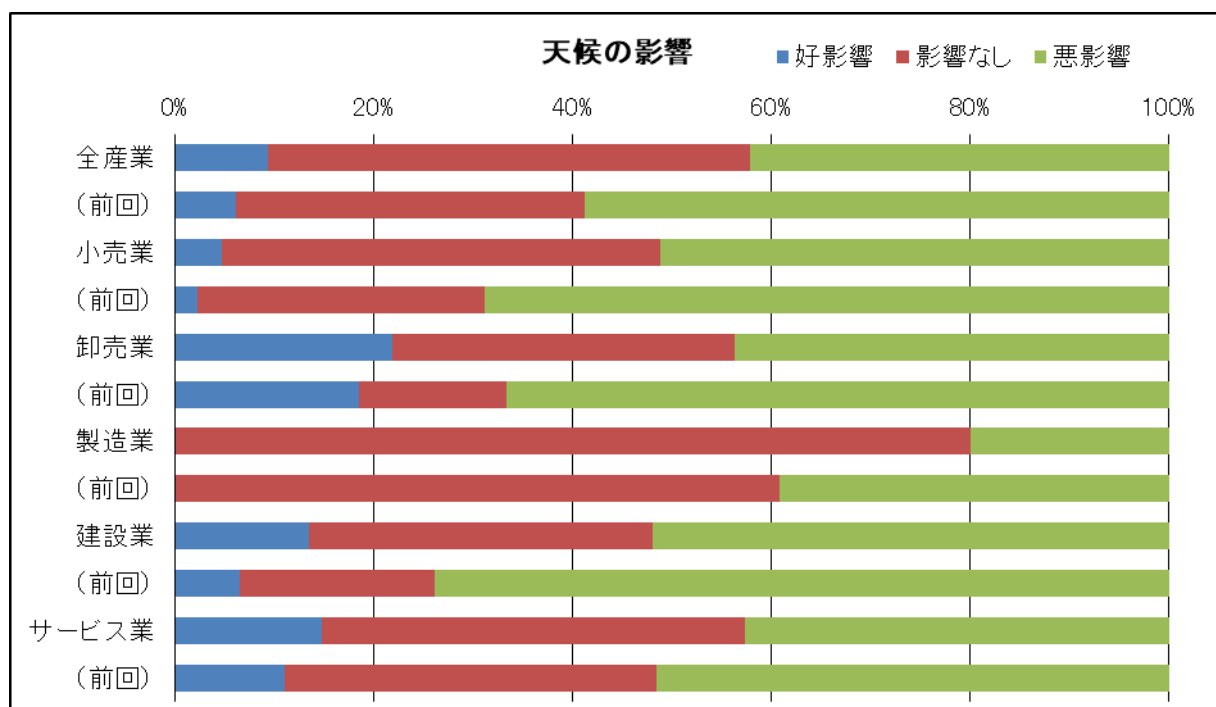
《経営環境》

【天候の影響】

○天候の影響は、全産業で好影響が9.4%、影響なしが48.5%、悪影響が42.1%の回答となった。業種別では建設業が51.9%、小売業が51.2%、卸売業が43.8%悪影響と答えた。前回比で見ると全産業で悪影響の割合が減少した。

○天候の影響（業種別影響割合）

	全産業	小 売	卸 売	製 造	建 設	サービス
好 影 響	9.4%	4.7%	21.9%	0.0%	13.5%	14.8%
影 響 な し	48.5%	44.2%	34.4%	80.0%	34.6%	42.6%
悪 影 響	42.1%	51.2%	43.8%	20.0%	51.9%	42.6%

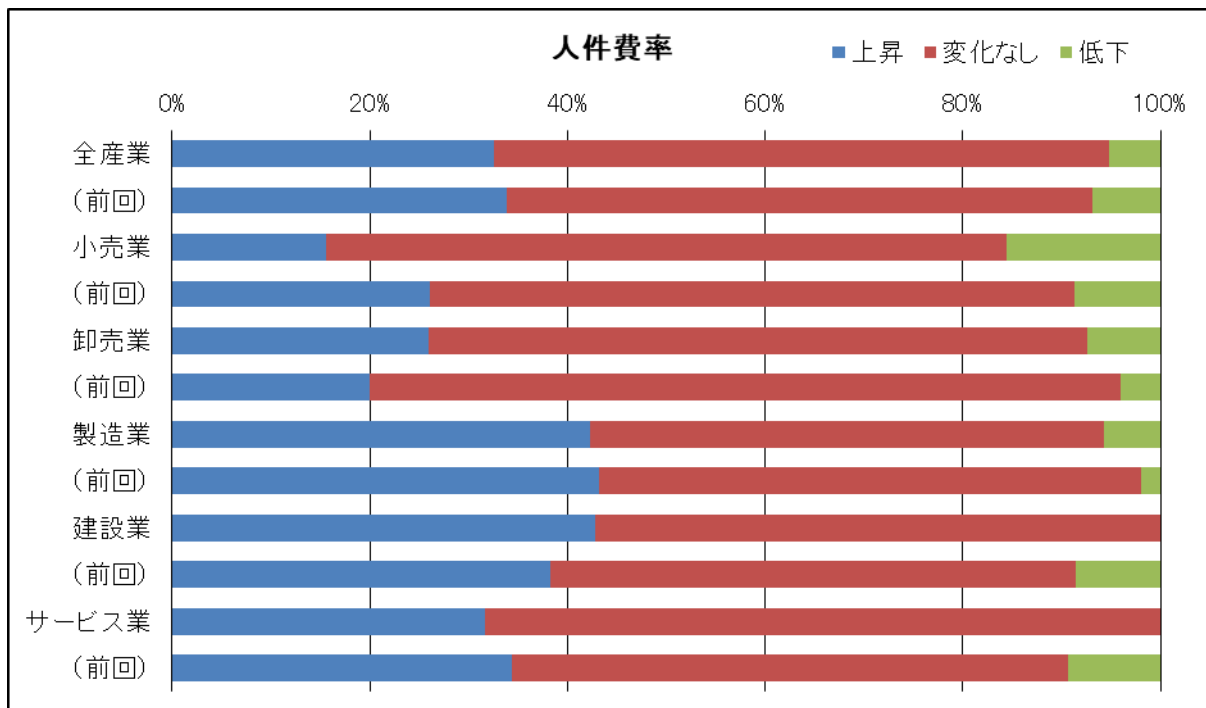


【人件費率】

○人件費率は、全産業で上昇が32.6%、変化なしが62.2%、低下が5.2%という回答となった。業種別では建設業で42.9%、製造業で42.3%、サービス業で31.7%が人件費上昇と回答した。前回比で見ると、小売業で上昇の割合が減少、低下の割合が増加し、建設業とサービス業で低下の割合が0%となった。

○人件費率（業種別人件費率割合）

	全産業	小 売	卸 売	製 造	建 設	サービス
上 昇	32.6%	15.6%	25.9%	42.3%	42.9%	31.7%
変 化 な し	62.2%	68.9%	66.7%	51.9%	57.1%	68.3%
低 下	5.2%	15.6%	7.4%	5.8%	0.0%	0.0%

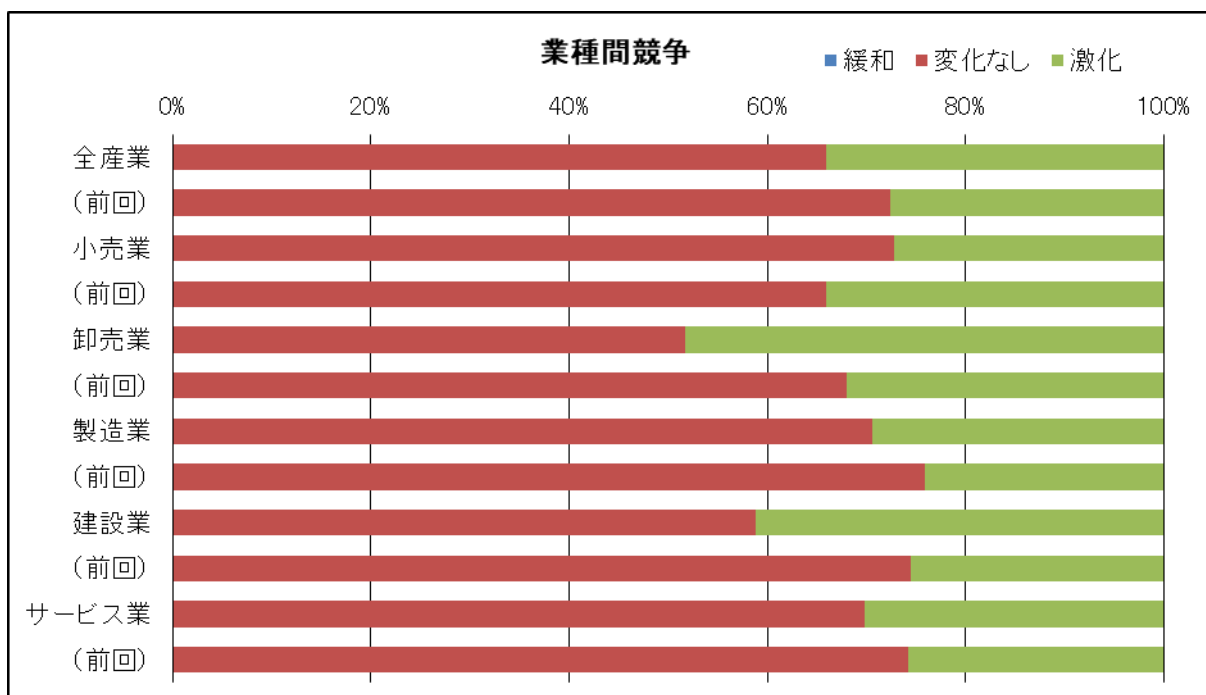


【業種間競争】

○業種間競争は、全産業で緩和の回答が無かった。また変化なしが66.0%、激化が34.0%という回答となった。前回比で見ると小売業で激化の割合が減少、卸売・製造・建設・サービス業で激化の割合が増加した。

○業種間競争（業種別競争状況割合）

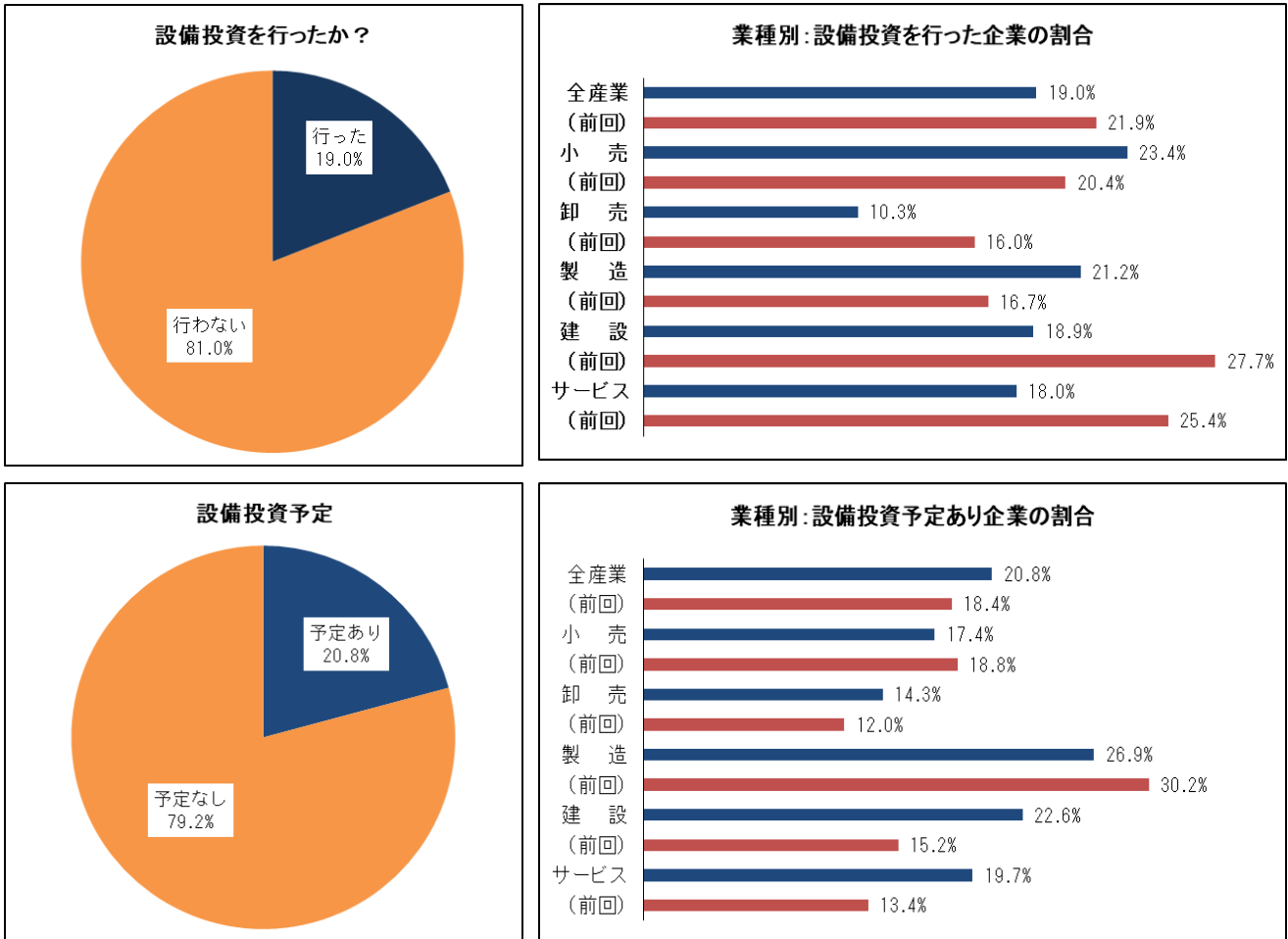
	全産業	小 売	卸 売	製 造	建 設	サービ
緩 和	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
変 化 な し	66.0%	72.7%	51.7%	70.6%	58.8%	69.8%
激 化	34.0%	27.3%	48.3%	29.4%	41.2%	30.2%



【設備投資】

○設備投資は全産業で19.0%の事業所が「行った」と回答があり、前回(21.9%)より減少した。業種別では小売業で23.4%、製造業で21.2%が「行った」と回答した。前回比で見ると建設業で「行った」と回答した割合が大幅に減少した。

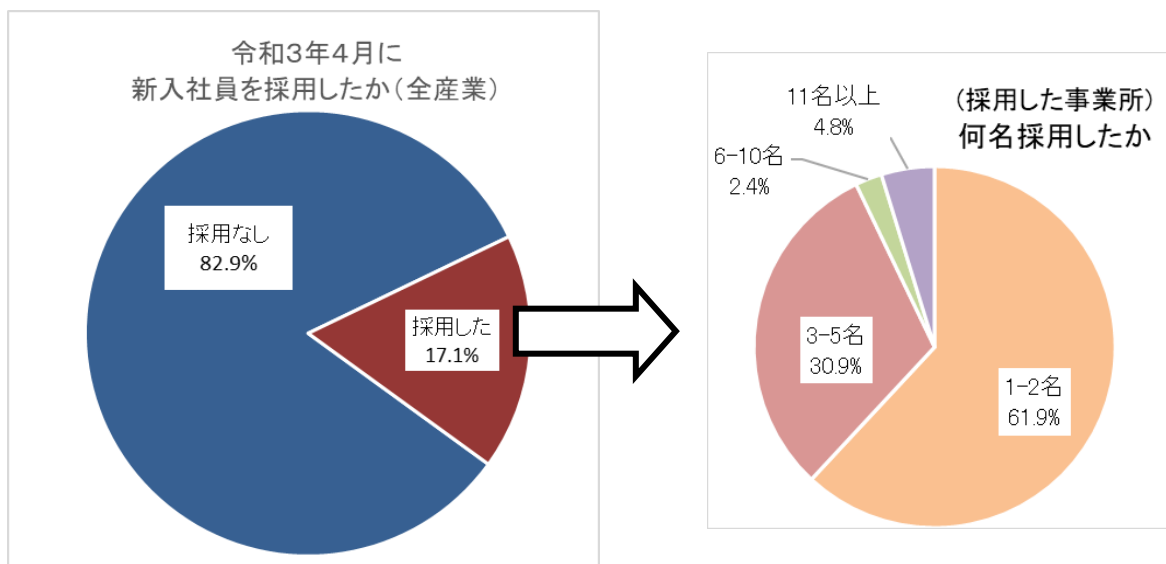
今後設備投資の予定があると答えた事業所は20.8%となり前回調査(18.4%)より増加した。業種別では製造業が26.9%、建設業で22.6%が「行なう予定」と回答した。前回比で見ると建設・サービス業で「行う予定」と回答した割合が増加した。



「臨時調査」

【新入社員の採用状況について】

令和3年4月に新入社員を採用したかという設問に対しては、82.9%が「採用なし」、17.1%が「採用した」と回答した。また「採用した」と回答した事業所の採用人数は「1～2名」が61.9%、「3～5名」が30.9%、「6～10名」が2.4%、「11名以上」が4.8%となった。調査をした事業所の多くが、新型コロナウイルス感染の終息が見えず、今後の景気に不安を感じて新規の採用を手控えようとしている。その一方で、1人でも2人でも何とか新しい人材を確保して会社全体を活性化させていこうという事業所もある。コロナ禍の中、人材雇用についても企業の両極端の考え方が伺える。

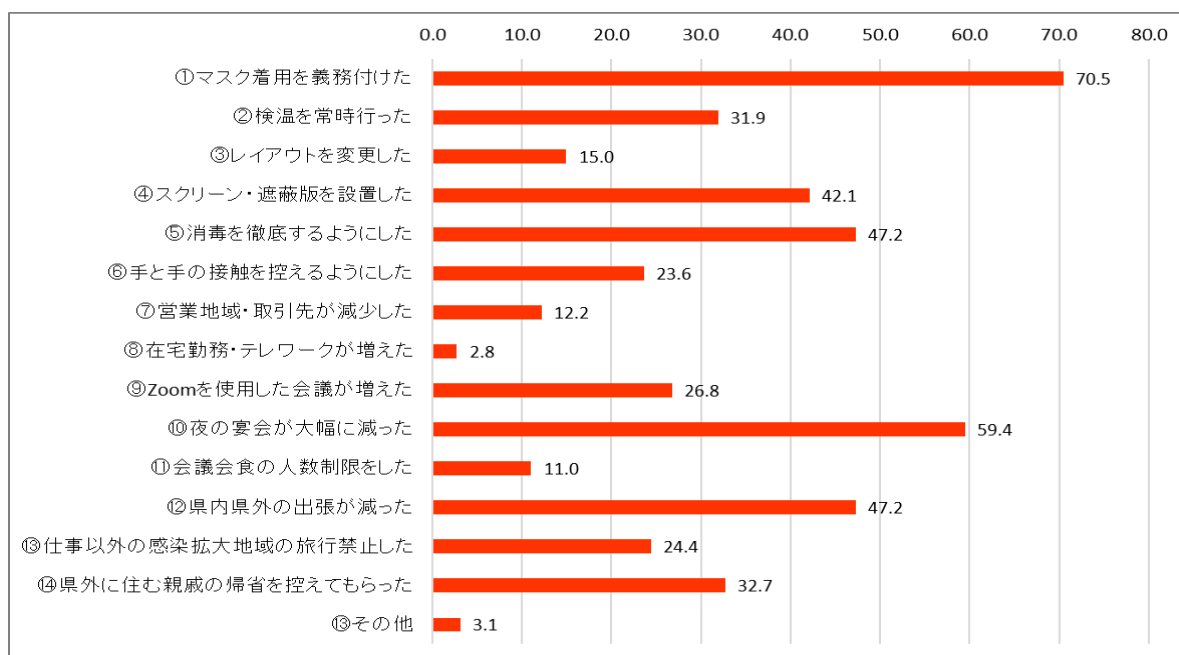


【新型コロナウイルスの影響について（自社及び取引先の変化）】

新型コロナウイルスの感染拡大から1年が経とうとしており、我々の生活スタイルは大きく変化していった。そういった中、自分の会社・取引先にどのような変化があったかを聞いた。

コロナ禍の中、自社の中でどのような変化があったか複数回答で聞いたところ、「マスク着用を義務付けた」「消毒を徹底するようになった」「スクリーン・遮蔽版を設置した」「検温を常時行った」等、感染防止策を徹底するための回答が多く寄せられ、「夜の宴会が大幅に減った」「県内県外の出張が減った」といった対外的な感染防止を講ずる回答も多かった。また、本人やその家族からの感染を防ぐため「仕事以外の感染拡大地域の旅行を禁止した」「県外に住む身内親戚の帰省を極力控えてもらった」という回答の多さも目立った。

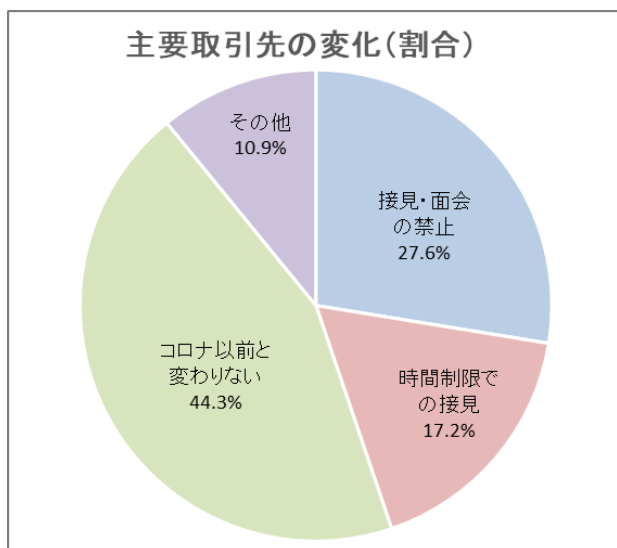
コロナ禍の中、自社の中でどのような変化がありましたか？(複数回答)単位：%



⑮「その他」の内容（抜粋）

- ・感染拡大地域に行った場合2週間出勤停止とした（小売業）
- ・売り出し等のイベントを取りやめた（小売業）
- ・感染拡大地域からの来訪禁止と、感染拡大地域の人との接触禁止（卸売業）
- ・来客のお茶・コーヒーの提供を止めた（建設業）
- ・仕出しや弁当の注文が多くなった（サービス業）

また、主要取引先の変化については、「接見・面会の禁止」が27.6%、「時間制限での接見」が17.2%、となり、この二項目合わせて44.8%の取引先が、相手との直接接触を出来るだけ避けるために接見・面会に何らかの制限を設けており、「コロナ以前と変わらない」の44.3%を上回る結果となった。「その他」の意見でも、リモートの商談対応・集金訪問の禁止・支払いは原則振込等、とにかく人との接触を避ける事を徹底している様子が見える。



[その他内容 (抜粋)]

- ・ 訪問先へ訪問する際事前連絡が必要になった (小売業)
- ・ 一般ユーザーと営業マンの来店が減少した (小売業)
- ・ 県外からの訪問を断った (小売業)
- ・ 以前に比べてメーカーが来なくなった (卸売業)
- ・ 取引先が休業した (製造業)
- ・ 取引先がリモート対応になった (製造業)
- ・ 仕事のやり取りが殆ど電話とFAXになった (製造業)
- ・ 集金訪問が禁止になった (建設業)
- ・ 支払いが振り込みに変更された (建設業)
- ・ 当日注文しても直ぐに荷物が届かなくなった (サービス業)

連日メディアで報道されているように、現在新型コロナウイルスの感染状況は全国的に「第4波」に入っている。4月23日に東京・京都・大阪・兵庫に発令された「緊急事態宣言」は5月末まで延長された。県内でも3～4月にかけて感染者が急増、奥州市内でもクラスターが発生するなど感染者が増加傾向にある。

今回の臨時調査で、コロナ禍による自社の変化では「夜の宴会の大幅減少」や「県内外の出張減少」という意見が多く、宿泊・飲食業、運輸業に留まらず、それに関わる全業種に影響を及ぼしていると考えられる。また新入社員の新規採用状況調査では、調査事業所の8割以上が「採用なし」と回答し、先行きの見えない不安から内部留保を高めるため「新規雇用する余裕がない」という状況が伺える。自由意見ではコロナ感染拡大による今後の経済への影響を不安視する声が多く、確かに一年前に比べコロナに対する様々な感染対策の徹底や各種金融支援策メニューも整備され、結果今回数値の改善は見られるが、コロナ禍以前の数値までには戻っていない。ようやく高齢者・医療従事者を対象としたワクチン接種が始まったばかりであり、未だ感染収束の先は見えず、今後の動向を注視していかなければならないという結果となった。

自由意見

(小売業)

- ・江刺で、コロナ感染症の影響が急激に悪化している
- ・街が人通りが少なく、本当に市内と思われない位閑散としている
- ・注文が来ない。電話は用事が無いのだけ来る。
- ・売上は昨年と変わらないが、昨年は消費税増税の影響で一昨年より悪かった。
- ・最近身近でコロナ患者が見聞きするようになり、先行きが心配。
- ・お客様にご安心いただけるための考えられる対策はしている。しかし消費マインドは低いまま。
- ・感染対策はとったものの、一日も早いコロナの終息を願う。

(卸売業)

- ・感染者数も増加しており、観光客数の減少により売上減少が続いている。
- ・換気優先のため電気代が上昇した。
- ・大雪、春の高温と、明らかに地球の気象の変化が起きている。近い将来 CO2 排出をゼロにしなければ、我々人類に残された時間は少ない。

(製造業)

- ・量販は観光地、業務用共に動きが鈍い。経費を削減して対応している。
- ・海外からの輸入製品が、海外事情やコロナの影響により入荷せず、仕事があっても売る物が無い状況に陥り始めている。

(建設業)

- ・4月に入って資材（木材・電線・その他）の不足と価格の高騰が現れてきている。仕入れを早めに対応し、価格と品不足に対応するようにしている。
- ・復興工事の終了、コロナによる国の景気の落ち込みにより、仕事量の減少が心配。
- ・補助金にて空気清浄機を購入した。
- ・求人しても応募が無いので、海外（ベトナム）からエンジニアを雇い入れた。
- ・コロナで先行きが恐ろしい。とにかく受注を重ねる努力をしている。コロナ融資で3年後に倒産が加速するのではないかと思う。

(サービス業)

- ・仕出しや弁当メニューの開発。
- ・コロナ拡大が奥州市にも出始めてきており、従業員・客とも緊張感が漂い始め、今後の動向が営業に左右されるのではないか。